

1964  
2012  
11/15

# 府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合  
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59  
電話 06(6941)0351・内線3740  
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541  
Eメール info@fusyokuro.gr.jp  
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp  
発行人/橋口 紀塩 編集人/田中 克義  
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

相対評価  
開示面談後の  
アンケート実施中  
ご協力お願いします!



## 11・11全国反原発行動

当初予定されていた抗議デモが、出発地点である日比谷公園の使用を東京都が許可せず中止となり、午後から本格的な雨が降る中、全国から集まった10万人の参加者が「原発ゼロ」の思いを国会周辺で訴え、府職労からも5名が参加しました。また、この日は全国一斉の行動が取り込まれました。大阪でも雨の中、午前中の梅田・ヨドバシカメラ前の行動に府職労から15人が参加。府下をはじめ全国46都道府県、230カ所以上で宣伝や抗議行動が取り込まれました。

# 「なくせ原発」の声、再び国会を包囲 雨の中、全国から10万人が参加

東京での行動に参加しました

行動しないと変わる

ものも変わらない

青年部長 中森 貴大

11月11日に東京で行われた「反原発東京大占拠」に参加してきました。

午後3時からの行動というところで、午前中は靖国神社に行っていました。

靖国神社の遊就館では戦争に貢献・加担してきた人や戦争時の作戦等が解説され、戦闘時の航空機や武器等数々の展示品が並んでいました。ここで印象に残ったことは戦争に派遣された若い人たちの遺書で

「日本のために戦死することは夢が叶ったことではありません」と書かれた一文には驚きました。

また、日本軍が中国や朝鮮などで何をしたら何かも説明されておらず、何も知らずにこの展示をみれば、あの戦争は止しかったと思ってしまうのではないのでしょうか。



靖国神社は戦争の正当化を訴えているみたいで良い印象には思いませんでした。ニュース等で政治家が「靖国神社参拝」を行ったことを海外等で批判されていますが、なんとなく理解できなかったように思います。

平和が大事であり、戦争なんでもってのほかです。平和であり続けてほしいです。

午後3時からは反原発抗議行動に参加しました。府職労の仲間5人で参加し、国会議事堂前で抗議デモを行いました。あいにくの雨でしたが、全国から多くの方が参加していて凄く、パワーを感じました。

小さなお子さんを連れた家族や高校生も参加していました。小さな子どもがマイクを使って「原発反対」



## 「政治活動制限条例」「労使関係条例」 許すな! 府内10ブロック宣伝スタート

府職労と府労組連は「政治活動制限条例」「労使関係条例」の制定を許さない府内10ブロック

府職労と府労組連は「政治活動制限条例」「労使関係条例」の制定を許さない府内10ブロック

府内10ブロック宣伝スタート

府民のいのちを守る、救命救急医療を充実させていくためにも職員と住民が一体となって運動をすすめることが大切で、そのためにもこの条例は許さないと訴えました。その場でチラシを配り、熱心に読んでくれる人や立ち止まって訴えを聞いてくれる人もいました。

府職労・府労組連は、府会議員への要請行動にも取り組んでいます。

## 大阪でも 2大ターミナルで 宣伝行動

大阪では、梅田と難波の2大ターミナルでの宣伝行動が行われました。雨の中、梅田ヨドバシカメラ前では60人の参加で宣伝を行いました。「原発は危険」

「今稼働している大飯原発は稼働を中止すべき」「大飯原発には活断層や地滑りがある」「原発なくともこの夏の電力は足りた」「自己エネルギーへ転換しよう」

「解散総選挙が近いので本日に原発をなくす声を国会に届けよう」と各弁士が訴えました。

雨にもかかわらず若い人を中心に多くの方が署名にも心掛けていただきました。また、難波駅前でも1000人の参加で大宣伝行動が行われました。午後からは府下各地の駅前で宣伝行動などが行われました。



デモ行進をしていると埼玉から来られた一組の夫婦の方に声をかけられました。大阪から来られたんですね。頑張ってください。うね「その瞬間、一体感が芽生えたように思います。デモをやったところで「何も変わらない」と思う方もいると思いますが、行動しないと変わるものも変わりません。これからも自分



分ができる範囲で反原発の行動を行っていきたくて思いました。

## 遊歩道

今、自治体病院が住民のそばに当たり前にある時代ではなく、なせ

保障の改善と公立病院改革プランによる病院の統廃合が進んでいるから。加えて、格差と貧困が広がる中で、医療・介護難民といわれる人々が増え、病院にかかれぬ。病院は患者が減り重症化が進み、全国的な医師と看護師不足で統廃合が進む構造的な問題がある。▼住吉市民病院の廃止問題で、高松病院事業管理者の塩谷医師と懇談した。病院が必要とする社会的共感と住民は既得権の主張ではなく、経営への参加とどんな病院にするかという視点が必要。何よりも当該病院職員はどうなっているかと問われた。住民の懇談申し入れに、院長は政治活動制限条例があると懇談拒否。労組も区長も懇談拒否。▼3・11の震災で壊滅した陸前高田の県立高田病院の再建には、労働組合を中心に職員・住民が共同して取り組んでいる。住民にとって労働組合が働きかけることは特別なことではない。▼風の人と土の人がいるが、自治体労働者はいろいろな情報を提供し、土の人とともに地域で運動することが求められる。黙っていても、何も守れないそんな時代だ。(S)